



平成ノ大造営ノ時満ちて道ひらく

御嶽神社 本殿遷座祭齋行

昭和五十八年以來の社殿修復完了

中津宮の摂社で大島御嶽山に鎮座する、御嶽神社では七月五日より社殿の修復に入り、この度約一ヶ月間の修復工事を終え八月一日に本殿遷座祭が、厳肅に齋行された。祭典当日、午後より神職が大島へ渡島し、快晴のなか、午後八時の出御へむけ準備を進めた。

出御祭に先立ち、午後五時、修復を終えた御嶽神社本殿にて、清祓の儀を執り行い、大麻・塩湯にて本殿、遷御道を祓い清めた。

午後七時三十分中津宮本殿にて、葦津権宮司以下神職六名奉仕の下、出御祭を齋行。午後八時出御し、午後八時三十分浄間のなか御嶽神社本殿へ入御された。

入御の後、御嶽神社にて入御祭を齋行し、本殿遷座祭は滞りなく終了した。



御嶽神社本殿へ入御



平成ノ大造営

時満ちて道ひらく

余滴

暑い盛りに滋養のつく物とされる筆頭が鰻だが、資源枯渇の昨今出荷量が減り価格も高騰して庶民の口には中々入らない。打開策として鮪養殖で有名な近畿大学が鰻の食味に近付けた養殖に成功したと話題だ。しかし、元々土用の丑には「このつくとこの風習からの鰻であるし、それを代替品にとの発想には疑問も感じる」鰻といえ、古来から地震を起すと言われてきた。鹿島神宮にある要石は地中に潜む大鯰を封じるとされ、迷信と片付けてもいまいが近年鯰は電場の変化にも敏感であることから地震予知能力があると期待されている。阿蘇神社にも鯰の伝承がある。祭神の健甕龍命が阿蘇の開拓にあたり広がる湖を無くし耕作地にと考え外輪山を蹴破る。湖水が少し引くと底から大鯰が現れ水をまだ堰き止めるので、命は刀で切り、ようやく流れ出たとの事。このままで書くと熊本地震は鯰の祟りかと思つ向きもあるが、同地ではその鯰も神として崇め祀り地元民は鯰を食す事を避けるそうであるので当たらない。熊本地震では多くの方々が被災され、当社でも職員を派遣しての復旧活動、また募金活動を行うも完全復旧の道程はまだ遠い。美朝公の古歌に「山は裂け海は浅せなむ世なりとも君に二心我あらめや」とあるが、阿蘇の山並みも崩落が痛々しい。正に「山は裂け」とは今回の地震被害の事と思つて良い。どんなに技術が進もうと自然の力はそれを凌駕し敵わない。自然への畏敬の念が「神道」という信仰を形作る柱の一つであり今に受け継がれているのである。(佐)

時満ちて道ひらく

# 造営日記 ②6

## 中津宮摂社 御嶽神社修復 第二駐車場トイレ新築

中津宮摂社、御嶽神社  
においては昭和五十八年  
に本殿修復並びに拝殿改  
築工事を行っているが、  
経年による木部の腐朽で  
傷みが著しく、平成ノ大

現在第二  
駐車場には  
トイレがな  
く参拝者に  
不便をかけ  
ていたが、  
今回新築す  
ることと  
なった。以  
前も設置し  
ていたが老  
朽化により解体、同所での建設とし、  
従前より便器数も増加、男女ともに多  
目的トイレを設け、近年の第二駐車場  
の利用状況に応じた設計とした。

七月五日中津宮本殿へ  
の仮殿遷座を済ませた後、  
主に木工事の修復となり、  
壁板のずれや、釘隠しの  
欠損、縁板周辺の腐  
朽等を修復し、全体  
の洗い・小口の胡粉  
塗り直しを行った。



修繕前の本殿



修繕後の本殿



七月下旬に着工しており竣工は九月  
上旬となるが、中旬から開催される神  
宝館大国宝展をはじめ、秋季大祭・  
七五三参り・菊花展等による多数の参  
拝者を迎える万全の備えとしたい。



## 宗像護国神社 戦没者慰霊祭

御英霊に対し思いを馳せる

終戦から七十一  
年目を迎える八月  
十五日。その日の午  
後七時、日清日露  
戦争より大東亜戦  
争までに戦没され  
た宗像・福津市内  
二千五百余柱の英  
霊を祭る宗像護国  
神社にて戦没者慰  
霊祭、田島千灯明  
が宗像・福津両市  
の遺族会、田島区  
関係者合わせ約  
四十人参列の下、  
肅々と斎行された。  
蠟燭に照らされた  
境内で我国の礎と  
なられ散華された  
御英霊に思いを馳  
せ感謝のまことを  
捧げられた。遺族  
や当時を知る  
人がいよいよ  
少なくなってきた  
今、現代  
人に欠けた  
「公」の精神を  
国と国民に尽  
くされた御英  
霊から学ばな  
ければならな  
い。



# 夏越の大祓式

七月三十一日午後五時、約五百名参列のもと夏越の大祓式が神門前にて古儀に則り厳肅に齋行

も及ぶ濃緑の見事な茅の輪が奉製され、神門に備え付けられた。

送る事ができるといわれている。

定刻、全国から寄せら

れた「紅白の人形」が納められた唐櫃が、茅の輪の前に供えられ、葦津宮司以下神職、巫女、多数の氏子崇敬者等が参列し大祓式が開始された。葦津権宮司が「大祓詞」を宣読した後、続いて奉仕員、参列者各人に配られた

「切麻」で自身を祓い、ついで所役が「祓物」の木綿に(白布)と麻布(麻苧)を八針に取辟き、最後に神職が「大麻」にて天・地・人形の罪・穢れを祓い清

め所役が人形・祓物・大麻を流棄した。次に宮司以下参列者全員で、古歌を奉唱しながら左右と茅の輪を潜り、本殿へと参進した。

古来、この茅の輪を潜れば邪気・罪穢れ・災難を祓い、暑さにも負けず、健やかな生活を

引き続き本殿にて夏越祭を齋行。宮司が皇室・国家の繁栄、皆様の無病息災・家内安全を祈念する祝詞を奏上、巫女による「豊栄舞」が奉奏され、祭典は滞りなく終了した。

茅の輪を潜る参列者



茅の輪奉製作業

布作業に御奉仕頂いた皆様には、紙面を以ちまして厚く御礼申し上げます。

### 〔古歌〕

水無月の夏越の祓へする人は  
千歳の命延ぶといふなり

思ふこと皆つきねとて麻の葉を  
切りに切りても祓ひつるかな

宮川の清き流れに禊せば  
祈れることの叶はぬはなし



大祓詞奏上



本殿にかけられた茅の輪



茅の輪を潜る参列者



祓物を八針に取辟く

# 七夕伝説発祥の地 大島にて 中津宮七夕祭齋行

八月七日、大島中津宮に於いて恒例の七夕祭が島を挙げて厳粛且つ盛大に齋行された。

境内には大島小・中学生の奉仕により竹灯が無

数におかれ、その明りの中、

夜半まで中津宮境内は大変な賑わいをみせた。

この中津宮七夕祭の歴史は鎌倉時代まで遡ることができ、以来島民によつて伝承されてきた神事である。次の世代へと受け継ぐべく、島内の各種団体の奉仕によって年々行事の規模も拡大し、島外よりの参拝者も増えている。

七夕祭に併せ今年も「元気な島づくり事業推進協議会」に

より「宗像大島七夕まつり」が催行され、天の川原のもと牽牛と織女の一年に一度の逢瀬の一刻が演出された。

七夕祭当日、早朝より沖・中両宮奉賛会、同敬神婦人部、元気な島づくり事業推進協議会、他、島内各種団体の御奉仕により渡船ターミナルから中津宮境内周辺に短冊が結び付けられた笹竹が備え付けられ、島は七夕の雰囲気一色に彩られた。

月十六日に宗像ユリックスで公演が予定されている「ミュージカルむなかた三女記」のミニ公演が催された。また公園には多数の夜店が出店され、参拝者を



夕刻になると島外からの参拝者も続々と中津宮境内に参集し、七夕祭りのイベント会場となる港湾緑地公園には浴衣姿の老若男女で溢れ、会場は華やかな賑わいをみせた。午後六時よりステージイベントとして地元大島の小・中学生による合唱や演奏、中津宮にて祈願をされた若い夫婦の結婚報告、また十

楽しむ。日没頃よりは島の子供達が境内に据えられた竹灯に点灯、幻想的な雰囲気にも包まれた。午後八時、「牽牛神社」「織女神社」の御前で、厳粛に七夕祭を齋行。齋主が年に一度の逢瀬を言祝ぐ祝詞を奏上、次に参列者はそれぞれの祈りを込めて玉串を捧げた。

又、祭典後には今年も「愛の赤い糸プロジェクト」が行われ、司会による中津宮七夕伝説が朗読される中、天ノ川を挟んで鎮座する「牽牛神社」と「織女神社」を空中に通されたチューブの中を赤い発光液が流れ、両宮が赤い糸で結ばれると参拝者から歓声が上がった。

その後伝統の七夕踊りも奉納され、島を訪れた人も島民も皆輪になり、神人と楽の一夜を共にした。

午後九時三〇分、大島港より臨時渡船が出され、島外の参拝者はそれに乗船し帰路についた。



第61回

# 中津宮七夕揮毫会

子供達約一六〇名参加の下、大島で開催



揮毫会場の様子



境内に展示された作品

七月二十九日、当大社中津宮の鎮座する筑前大島において恒例の中津宮七夕揮毫会が開催された。この日は島内・県内外各地より幼稚園児から中学生まで約一六〇名の子供達を参加者として大島に迎えた。

この七夕揮毫会は、書道教育振興を目的とし、昭和三十一年に第一回揮毫会が開催され、今年で六十一回目を数える、宗像大社の中でも最も歴史ある神賑行事である。当日は早朝より多くの子供達とその保護者、関係者がフェリーにて続々来島し、揮毫会場である大島小・中学校の校舎へ移動、ホールの席上にて日々

の練習の成果を発揮しようとする意を集中させ、学年ごとに与えられた課題に懸命に挑んだ。

第61回

## 中津宮七夕揮毫会

各受賞者は下記の通り

福岡県知事賞	大野 晴都	小学5年	津屋崎小学校
//	川端 隆嗣	中学3年	津屋崎中学校
福岡県議会議長賞	溝江 論人	小学3年	那珂小学校
//	田尻 愛菜	中学1年	城山中学校
福岡県教育委員会賞	堤 優 吏	小学2年	那珂南小学校
//	江藤 菜津美	中学2年	古賀北中学校
宗像大社宮司賞	橋爪 実花	小学4年	板付小学校
//	下川 愛佳	中学3年	大野東中学校
宗像市長賞	鍋島 令奈	小学6年	赤間小学校
//	大野 陸渡	中学2年	津屋崎中学校
福津市長賞	湯地 彩吹	小学1年	板付小学校
//	垂水 友里	小学1年	福間中学校
宗像市議会議長賞	代田 賢志	小学5年	赤間小学校
//	石津 志乃	中学1年	津屋崎中学校
福津市議会議長賞	日下部 瑞萌	小学4年	弥生小学校
//	本松 尚子	小学3年	津屋崎中学校
宗像市教育委員会賞	橋爪 優咲	小学6年	板付小学校
//	日下部 維風	中学2年	那珂中学校
福津市教育委員会賞	松尾 孝太郎	小学2年	赤間小学校
//	石津 奏乃	小学1年	津屋崎中学校
宗像観光協会賞	北原 もも	小学3年	昭代2小学校
//	天本 愛望	小学3年	大野東中学校
福津市観光協会賞	福永 紗也	小学1年	河東西小学校
//	中村 優里	小学2年	城山中学校

終石賞9名、福岡書道会賞9名、尚文堂賞9名、ヒロカネ賞15名、金賞40名

清書時間三〇分という限られた時間内で書き終えた三枚の中から一枚を選出し、中津宮へと移動し作品を提出した。正午過ぎ、全作品が提出されると、早速御神前に奉納し奉告祭を斎行、参加者の学業成就と健康を祈念する祝詞が奏上された。祭典後、直ちに福岡書道会の先生方によって厳正な審査が行なわれた。その間、緊張から開放された子供達は神社前の

砂浜にて、大島の方々のご協力で行われている恒例のサザエ拾いや海水浴を楽しみ、大島ならではの大自然を満喫した。午後三時には審査も終わり、早速境内回廊に入り選作品を展示、表彰式が行われ、入賞者に賞状とトロフィーを授与し、本年の七夕揮毫会は恙なく終了した。

終わりにこの揮毫会に際し、一方ならぬお世話を受け、大島小・中学校を頂いた、大島小・中学校、福岡書道会の先生方をはじめ多くの皆様には、紙面より厚く御礼申し上げます。



# オーボエ奏者 渡辺克也氏 奉納演奏

八月一日正午より辺津宮本殿にてオーボエ奏者渡辺克也氏による奉納演奏会が開催され氏子、崇敬者等五十人が参集した。

渡辺氏は、東京藝術大学卒業後、Sony Music Foundation主催第一回

国際オーボエコンクールで入賞。九〇年の第七回日



「蘇州夜曲」(作詞・西條八十 作曲・服部良一)ほか三曲で、参集した人々はその音色に聴き入っていた。

本管打楽器コンクールでは大賞を受賞された。

九一年に渡独されベルリン・ドイツ・オペラの首席奏者を歴任、現在はソリスト・ヨーロッパアンズ・ルクセンブルクの首席奏者として活躍されている。

当日、演奏された曲は、「二月一日」(作詞・千家尊福 作曲・上真行)、

## 第2回

# 職員マナー講習開催 正しい言葉遣いとは

巫女職を中心とした職員のマナー講習会の第二回目

が、前回と同じく友清順子氏を講師としてお迎えし七月二十五日に行われた。

前回の講習は立ち振る舞いを中心に行われたが、

今回は言葉遣いを中心に講義が行われた。

まずは、混同しがちな

敬語・尊敬語・謙譲語の違いが説明された。その後、実践的な様々な言葉・自己

紹介を尊敬語・謙譲語で声に出して、一人一人指導が行われた。

次に巫女全員に広告チラシが配られ、謙譲語にて説明を行い滑らかに言葉

が出てくる訓練が行われた。会の最初では、ぎこちなさの抜けない様子では

あったが、時間が進むにつれスムーズに言葉が出てきた。

第二回の研修が終わり、

これから研修の成果が発

## マナー講習

### 巫女レポート

まず、前回の復習から始まった第二回目のマナー講習。私は、社頭での立ち振る舞いについて、前回の講習で教えて頂いた品格の笑顔を意識して実践できたと自負しています。

揮されるはずである。これから世界遺産登録等により参拝者が増える可能性がある。このため、今後も研修を続けて行きたい。



今回は、敬語についての講習でした。基本的に敬語は相手に敬つたり、自分が遜った立場で相手に使う言葉で、ですます調のように相手と自分が同じ立場で使う丁寧語は相手を敬う言葉ではないので、参拝者の方に使うのは適切ではないと知りました。それぞれの言葉の性質を学ん

だ後、敬語で質問に答えたり、敬語に言い換えたりと実際に使う練習をしました。普段自分ではできていないと思っても、いざ言い換えるとなるとできていない部分が多かったので、きれいな尊敬語、謙譲語を使えるように意識して使っていきたいと思えます。

RKB毎日放送創立65周年記念

# 宗像・沖ノ島 大國宝展

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群  
世界遺産登録推薦決定記念事業

2016年  
**9月17日[土] - 11月28日[月]**  
開館時間 9:00~17:00(入場は16:30まで)

\*ただし9月17日(土)は開会式のため、  
一般入場は午前11時30分より

## 宗像大社 神宝館

閉館のお知らせ

- ◆8月1日(月)~9月11日(日)  
展示替え作業の為一部閉館
- ◆9月12日(月)~9月16日(金)  
完全閉館



”神宿る島”沖ノ島から出土した  
初公開を含む国宝の数々、一挙公開

さんかくふちしんじゅうきょう  
▲三角縁神獣鏡(国宝)

きんせいゆびわ  
▲金製指輪(国宝)

りゅうとう  
▲金銅製龍頭(国宝)

# 宗像大社 秋季大祭

たしまほうじょうえ  
(田島放生会)の  
ご案内



宗像大社秋季大祭(田島放生会)日程

10月 1日(土)	みあれ祭 (海上神幸)	9:30	大島港出港
		10:30	神湊港入港
	一日祭 (入御祭)	12:00	於=辺津宮 本殿 主基地方風俗舞 奉奏
10月 2日(日)	流鏝馬神事	8:00	於=神門前 参道
	例祭	11:00	於=辺津宮 本殿 浦安舞 奉奏

10月 3日(月)	三日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 翁舞 奉奏
	高宮秋季大祭 第二宮・第三宮 秋季大祭 宗像護国神社 秋季大祭		三日祭終了後引き続き、 各社に分かれ同時斎行 (正午頃を予定)
	献茶祭	14:00	於=辺津宮 本殿
	高宮神奈備祭	18:00	於=辺津宮 高宮祭場 悠久舞 奉奏

当大社最大の神事、  
秋季大祭を左記日程で  
斎行致します。  
皆様の御参拝を心より  
お待ちしております。

お問い合わせ先  
宗像大社 社務所  
(0940)62-1311(代)

- |      |      |      |       |      |      |      |      |        |      |      |         |     |        |       |      |     |     |       |      |      |      |      |        |     |       |       |      |       |         |      |         |     |         |
|------|------|------|-------|------|------|------|------|--------|------|------|---------|-----|--------|-------|------|-----|-----|-------|------|------|------|------|--------|-----|-------|-------|------|-------|---------|------|---------|-----|---------|
| 船橋市  | 姫路市  | 栃木市  | 下関市   | 品川区  | 三郷市  | 大阪市  | 諫早市  | 二、〇〇〇円 | 杉並区  | 北九州市 | 三、〇〇〇円  | 大阪市 | 四、〇〇〇円 | 横浜市   | 三養基郡 | 港区  | 登米市 | 名古屋屋市 | 戸塚区  | 千葉市  | 神戸市  | 大分市  | 五、〇〇〇円 | 文京区 | 文京区   | 名古屋屋市 | 仙台市  | 京都市   | 一〇、〇〇〇円 | 武蔵野市 | 二〇、〇〇〇円 | 広島市 | 三〇、〇〇〇円 |
| 林美和子 | 奥村陽一 | 久川歩希 | 藤川ミヤ子 | 淵脇正勝 | 石河綾子 | 村瀬君夫 | 泉野悦子 |        | 渡部清二 | 杉孝子  | 西木正照・由美 |     |        | 藤井裕美子 | 高嶋和彦 | 朴璐美 | 浅田修 | 今村明子  | 的場博子 | 横山厚子 | 高橋広美 | 内田史佳 |        | 福井翼 | 高木友一朗 | 杉江さゆり | 大宮彬護 | 長谷川靖倫 |         | 花堂靖仁 | 山田隆徳    |     |         |

御造営奉賛者御芳名  
(平成二十八年七月)(順不同・敬称略)

第六六一回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 宮田 山本 静子

手をあげて歩行器来たたる満面の笑みこぼしつづつ止まりてタッチ景が見えるようだが、友が欲しいので歩行器の友は満面の笑みこぼしわが前に来てハイタッチすることした。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

子の飛行基地沖繩特攻に征きたる兄は此処より還らぬ息子さんはパイロットか。その勤務する基地から、かって特攻に出た兄をかなしむ作者。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

ほしいままにさつき松原のほのぐらきなかにて鳴けり朝のホトトギスほととぎすと松林の暗さが合い、雰囲気がある。ほしいままを、鳴くと近づける工夫を。

宗像市 武丸 白土 凌一

時鳥朝を知らずや朝早く木の上で鳴く良き日よりなる早朝のほととぎす。三句以下へ日より良き今日はしきりに木の上で鳴くと朝を一つに。

福津市 若木台 山崎 公俊

むなかたの海さつき晴れ島々の女神に贈りたし大き柏餅明るい詠みぶりの楽しい歌。この様な歌を献じられたら、女神もにっこりされるだろう。

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉

宮若の人氣少なき善光寺新幹線の音通り過ぐ新幹線の音が過ぎた後の静けさ。三句は字余りになるが助詞を入れ(善光寺に)。

宗像市 多禮 早川 祥三

抑止力いまだ奉りて核だのみ正邪いずれや人の格とは核から人の善悪を考えた作者。二三句へ信じて核頼る、四句へ(性ととは)に。

北九州市 門司区 北野カズミ

条件の何に満ち足るブルーベリー枝たわませて日ごと熟れゆく何が良かったのか出来の良いブルーベリーを。不思議に思う作者。三句(満ち足るや)。

宗像市 池田 森 龍子

菜園の曲がり胡瓜に物語り作りて独りの厨たのしむ気分の良い歌。作者の作った物語を示す言葉があると、読者も一緒に楽しめるだろう。

宮若市 水原 吉崎美沙子

垣超えて表縁へと吹き抜ける五月の風にのせて掃き出す風の道が丁寧な描かれて爽やか。三句以下へ吹く風に載せて掃き出すわが家の塵と。

宮若市 宮田 本田エリナ

合唱の主役はいつもワシワシでわが街ももう垂熱帯なり確かに熊蟬の声をよく聞く。断定せずにへわが街はもう垂熱帯らしととしては。

福津市 中央 池浦千鶴子

小雨降る宮の桜の黒き幹春惜しむらし花びら止る雨で幹に張り付いた桜の花びらを春を惜しむと見た作者。三句へ(黒き幹に)と助詞を。

宗像市 日の里 大和美由紀

茂みからひよいと出て来し野うさぎはびよんびよん跳ねて山道登る山道を跳ねる兎の様子が可愛い。擬態語が二句・四句にあるので、二句は(不意に)。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

親子孫文月生れ集いして誕生祝ふささやかな宴同月生れの仲の良い家族。三・四句へ集まりて誕生日祝ふとすると言葉の流れが良い

◆ 選者詠

あさなさな苦瓜ジュースを飲みし夏過ぎて気付けり眉間のしわに思い出し笑ひするほどの可笑しさにこのごろ会はず多くは苦笑

第六三四回

俳句作品集

宗像市 武丸 白土 凌一 宗像の山はかすみて夏を知る

編集後記

八月十五日 日は終戦

七十二年目。当社では宗像護国神社において戦没者慰霊祭と千灯明を執り行いました。七十二年前、その当時の人々はこのような平和な日が訪れることを想像できたのだろうか。祭典奉仕後、英霊の御霊に思いを馳せると共に、この時代を生きている私たちは未来について真剣に考えなければならぬと思いました。また、そのことを語り継いでいく人が減っている今、私たちが話を聞き、勉強することで後世にその時代のこと、さらには思いというものを伝えていく義務があるのではないだろうか。(黒)

発行所

宗像大社社務所・宗像会

住所 千八一一一三五〇五

福岡県宗像市田島三三三三

電話 (0940)6211311(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚・鈴木・黒神

制作・印刷 ゼネラルアサヒ

9月 祭事曆

- 1・15日 月次祭 午前10時～ 高宮祭 第二宮・第三宮祭 宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時～ 総社祭 ※1日は引き続き風鎮祭斎行 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)
- 22日 皇霊殿遙拝式 午前10時～
- 30日 秋季大祭宵宮祭 総社地主祭 午後5時～ 宵宮祭 午後6時～